

第54回



Color & Comfort by Chemistry

DIC VIETNAM

DIC株式会社は東京都千代田区神田淡路町に本社を置く化学工業メーカーで主要事業は印刷インキの製造・販売であり、世界トップのシェアを獲得しています。

DIC Vietnam Co.Ltdは、著しい需要の増大が見込まれるベトナムの印刷インキ市場に対応するために、2005年3月にDIC株式会社100%子会社のインキ製造・販売拠点として、ホーチミン近郊、ビンズン省のベトナム・シンガポール工業団地内に設立されました。今回はそんなDIC Vietnamの西井マーケティングマネージャーにお話を伺ってきました。

●事業内容

印刷用インキの製造・販売

●DIC VIETNAM CO.,LTD

31 Street 6, Vietnam-Singapore Industrial Park, Thuan An Dist, Binh Duong Province.

●日本本社

DIC株式会社

東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地



一進出の経緯についてお聞かせください。

弊社は、1908年に創業し、すでに100年以上にわたって色の世界を支えています。全世界で60以上の国と地域に関係会社約200社を展開しており、従業員20,000人の内約70%が外国で活動しているグローバル企業です。

当社の理念の一つに「進取」という言葉があります。これは、習慣や固定観念にこだわらず、視野を広げ新しいことに挑戦していくと言う意味があり、積極的に海外に進出しております。

そのようなことから、当社は創業当初より海外を志向しており、他の国内印刷インキメーカーに先駆けてアジアへ進出して参りました。

また、ベトナムは、元来高いポテンシャルを持っていると考えており、魅力的な市場としてかね

てより注目をして参りました。

昔の日本がそうだったようにここベトナムでも実際に高い経済成長率を続けており、経済の発展とともに我々のインキを使って頂ける機会が増える予想しています。弊社としては化学の力で、「豊かさ」、「快適さ」を提供する「Color & Comfort by Chemistry(化学で彩りと快適を提案)」を掲げ、ベトナムの社会を豊かで快適にしたい、という思いが強くあります。もちろんビジネスとしてのメリットもありますが、ベトナムの経済や文化、生活の発展にお役に立つことが出来るのではないかと強く感じるようになったのが進出した大きな理由です。

一業務内容についてお聞かせください。

グループ全体では4セグメントで事業を展開しています。一つ目は新聞や雑誌はもちろん、パッケージやペットボトルのフィルムや飲料缶などでも幅広く使われている「印刷インキ」事業、二つ目はオプトロニクス材料を中心に液晶テレビなどに使われる液晶材料やカラーフィルター用の顔料などの素材製品を提供する事業である「ファインケミカル」事業、三つ目は車の樹脂、電子デバイス用の樹脂などの元となる製品を作っている「ポリマ」事業、四つ目は基礎技術を応用した事業である「アプリケーションマテリ

アルズ」事業となります。

これら4本の柱で基礎素材とコア技術を生かした「Color & Comfort by Chemistry」を推進しています。なお、主力製品である印刷インキと液晶テレビに使われているカラーフィルター用グリーン顔料は、弊社の製品が、世界シェアNo.1となっています。

ベトナムでの事業は特に印刷インキの製造・販売が多くのウエイトを占めております。その中でもグラビアインキ、パッケージや商業印刷物などで使うオフセットインキ、新聞インキ、シルクインキ、おむつやラベルなどで使うフレキシソインキ、フィルムとフィルムを張り合わせる時に必要な接着剤や塗料などの顔料、後、インキには直



調色作業



ミキシング工程



最終調整

接関係ないのですが、工場によく使われる樹脂パレットの販売も行っています。

一言でインキといっても、色を付ける対象物によって製品が全く違ってきます。例えばペットボトルなどで使用している薄くてやわらかいフィルムは、色を付けるには難しい材質になるのですが、そのような材質でもしっかりとインキが付くように特殊なインキを開発したり、食品関係ですとパンの包装材では、食品がインキに接することが禁止されていますので、フィルムを二重にしていたり、パンに付いているマーガリンなどで色が落ちないようなインキを開発したりしています。また、カップラーメンの器などの暖めたりする必要のある製品では、色が熱で変色してしまわないように熱対策がされています。このようにそれぞれの産業の特性に合わせたインキをお客様へ提供させていただいております。

また、ただインキを作るだけでなく、樹脂着色剤や各種樹脂製品、多層フィルムなど、インキに関係する製品も数多く取り扱っております。

—インキはどのように作られてお客様の元に届けられるのですか？

まず、インキは大きく分けて、色の素である「顔料」と「樹脂(ワニス)」と「助剤」で構成されています。顔料の原始的な作り方ですが、三角フラスコに釘と塩酸を入れます。その後、過酸化水素水を入れると、釘(鉄)が塩酸に溶けるのですが、その際に塩酸と過酸化水素水が化学反応を起こします。この時にある特殊な物質をまぜますと「顔料」が出来上がります。この顔料を使用して様々な色のインキが作られます。その顔料は粉状態になっていますので、樹脂(ワニス)を使用してペースト状に混ぜ合わせます。この樹脂(ワニス)は、それぞれの印刷用途によってまったく変わってきます。弊社では、顔料と樹脂(ワニス)を混ぜ合わせペースト状にする工程をミキシング工程と言い、その後、混ぜ合わせたものを細かく砕いてなじませる作業がありますが、それをグラインディング工程と言っております。ミキシング工程でペースト状の材料を作

り、グラインディング工程で馴染ませ、それから助剤を入れてインキの特性を持たせます。最後に、検査室にてしっかりとインキの特性が出ているのかチェックした後、パッキングを行い各お客様へ配送する流れとなっています。

顔料は把握しているだけでも約1万種以上あり、配合する分量により多種多様な色が作れます。弊社としては今まで培ってきた技術・ノウハウを活かして、お客様に必要な製品を作り上げ、お届けしています。

—食品に使用する際の規制などで苦勞されている事はありますか。

当然、危険なものは使用できませんし、国によって、特にヨーロッパやアメリカでは規制が非常に厳しくなっています。弊社の場合、グローバルに展開していることもあり、世界各国で培われた経験を活かし、ベトナムでインキを作っております。また、弊社製品であるインキを各企業様が使用し、製品へと加工・生産され、世界各国へ輸出しているケースが多いため、それぞれの輸出国に合わせた製品を作ることでお役に立てているのではないかと思います。ただ単にモノを作るだけではなく、環境や人体への影響に配慮し、その国々の規制に適合した製品を製造できることは我々の強みの一つだと自負しております。

—ベトナム社員の評価や離職率はいかにですか？

従業員は現在42名です。日本が特殊なのかもしれませんが、ベトナムでの離職率の高さには苦勞した時期がありました。弊社のようなメーカーは、原材料や設備があれば製品が作れるかという点、そうではなく、様々なノウハウと技術、ワーカーさんの熟練度が製品の安定に繋がってきます。そのため、人数の多さではなく、ワーカーさん一人一人の質が重要であると考えています。弊社では長く勤めていただくために社員旅行はもちろん、くじ引き大会、歓送迎会などを行い、会社に対する思い入れを持っていただけるよう、試行錯誤しながらやっています。社員同士の仲間意識、連帯感というのは非常に強いのではないかと感じています。

男女比率についてですが、弊社では力仕事ややや多い関係で男性が多いです。よくベトナムでは女性の方が、まじめで優秀だと聞きますが、基本的には皆さんまじめに働いてくれますし、お願いしたことは迅速にアクションを起こしてくれます。仕事のやり方や指導、アドバイスを求める機会があったときも、すぐに次の仕事から活かそうとする姿勢があり、まじめで勤勉、向上



グラインディング工程

心が高いなと感じています。仕事に対する熱意も非常に高いと感じています。一方、個人個人が持っているノウハウ、情報をあまり共有したくない傾向があり、集団での作業が苦手だなと感じることがあります。

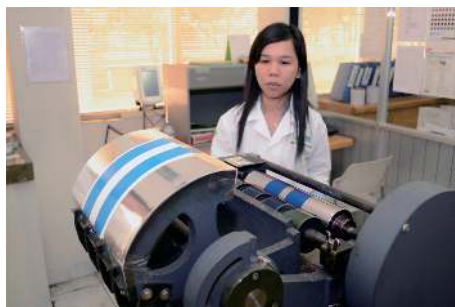
また、「報告・連絡・相談」が苦手なところがありますので、日本のいいところである「ホウ・レン・ソウ」をもっと学んでいただけたらさらに生産性が上がってくるのではないかと感じております。

—今後の展開について

2005年の設立から今年で10年目を迎え、おかげさまでDICベトナムでの事業が多くのお客様に認知していただけるようになってきました。また、スタッフの経験値が上がってきており、例えば営業ですと製品知識を十分にもっており日本で言うソリューションビジネスを行い、お客様が抱えている問題を解決することができるようになってきています。もちろん技術の面でも知識がどんどん高くなってきていますので、今まで以上に質のよいサービス、より厳しい品質管理を行っていくと同時に、ただモノを作るだけではなく、グローバル企業として責任を持ってしっかりと環境負荷の低減や人体への影響を考えた製品を作りたいと思っています。

そしてベトナムの経済発展とともに高付加価値製品の開発と高い意匠性に対応できる製品を作っていく、ベトナム国内に向けてさらに発信・貢献していきたいと思っています。

—ありがとうございました。



品質チェック